

9月8日
第41回

創造広場

そうぞう
ひろは



鍾歩舞 (歩清)「三農夫」

一九三〇年ごろの中国で、作家魯迅が中心となり、木刻(木版画)運動がさかんに行われました。多くの農民が、釜や鋤を彫刻刀に持ちかえ、作品をつくりました。

だれでもぜひ参加してください。
参加費100円・材料はこちらで用意します。

版画をつくりよう



川俣 (江豊)「老人」

今夜七時から、「吉望の家」一階集公室で、
キボウノイ (うらの地図をみてください)

先週は、詩をつくりました。

9月5日(日)の「出張・創造広場」は、バトミントン大会をやりました。証、やり現。

先週はみんなで詩をつくり、日野さんが創造広場で詩をつくる場合の、心がまえを整理して、詩してくれました。

広場で詩をつくるとき、次のふたつだけ注意しよう。**ひとつは、思ったことは、思ったとウリに**、と、いうことです。これが、かん

たんなようでも、むずかしいのです。あう、ほくてもいいから、そのときの思いをそのまま書いてみるのです。手配師を殺したの、とか、トニコしてきた、とか、また、ある人には、△に見えたものが、自分には○に見えた、などのように、まず、紙に、自分の感情をすべて出してみるのです。

次に、**ふたつめに、注意すること**は、**読む人にわかるかな?**、というこ

を考えてみるのです。詩をかくのは、自分一人であっても、読む人はたくさんいるわけです。最初に、自分が思ったとウりに書い

た詩をもう一度、みつめてみることで、本当に自分が人に伝えたいことは何なのか、余分なところは、ないか、もっと具体的に書いたほうがいいのか、と、いろいろ考えて、書きかえてみるのです。

このことを注意しながら、くりかえしながら、創造広場で詩をかりていけば、きっと、いい作品が生まれてくるでしょう。
※詩は、オノノゾク日の創造広場でつくります。

